vinetur

シャンパーニュ出荷、輸出の伸びで10月までに2%増

輸出は1億2,840万本に達し、フランス国内の3.5%減を補って余りある結果となった

2026年11月16日（月）



業界団体Comité Champagneの発表によると、2026年1～10月のシャンパーニュ出荷量は2%増加した。フランス国内の減少が続くなか、海外需要がこれを補った。

1～10月の出荷量は2億360万本で、2025年の同じ期間を上回った。増加分のほぼすべては輸出市場によるものだ。フランス国内向けは3.5%減の7,530万本だった一方、輸出は5.6%増の1億2,840万本となった。

この10カ月間のシャンパーニュ出荷量のうち、輸出が占める割合は63%強に達し、同地域が国際市場の買い手にいかに大きく依存しているかを示している。この内訳は業界内の格差拡大も浮き彫り

にしている。大手メゾンが輸出需要の恩恵を受ける一方、多くの栽培農家や協同組合は苦戦が続いた。

10月の動きは、年初来の全体的な傾向よりも弱かった。同月の出荷量は2025年10月比3.4％減の2,960万本。最も大きく落ち込んだのはフランス国内で、7.3％減の1,110万本となった。輸出は1％減の1,860万本だった。

輸出の内訳を見ると、10月のEU向け出荷は1.2％増の690万本だった一方、EU域外向けは2.2％減の1,170万本となった。販売カレンダー上、10月は重要な時期にあたる。同月は歴史的に年間出荷量の約11.8％を占めており、年末のホリデーシーズンを前にした重要な指標となる。

それでも、10月までの全体的な傾向を見ると、海外市場が引き続き力強く下支えしている。1～10月のEU向け出荷は6.7％増の3,900万本、EU域外向けは5.1％増の8,940万本となった。この増加は、フランス国内の減少を補って余りあるものだった。

全体の増加の陰には、生産者グループ間の明確な差があった。最も好調だったのはシャンパーニュ・メゾンで、10月までの出荷量は4.1％増の1億5,540万本。輸出は6.8％増えた一方、フランス国内向けは2.2％減少した。

栽培農家にとっては、より厳しい一年となった。出荷量は4.4％減の3,210万本。フランス国内向けは7.7％減ったものの、輸出は6.2％増加した。協同組合も出荷量が3.3％減の1,620万本となった。メゾンや栽培農家とは異なり、協同組合は海外でも後退し、輸出が8.7％減少した一方、フランス国内向けは2.8％増加した。

協同組合にとって10月は特に厳しい月となり、出荷量は17.5％減少した。これは業界の他の区分よりも大幅な落ち込みだった。生産者グループ間の格差は、どの供給元に在庫があるか、年末の割り当てをどう管理するか、どこで価格への下押し圧力が生じるかに影響するため、輸入業者、卸売業者、小売業者にとって重要だ。

直近12カ月ベースで見ると、回復は小幅にとどまった。2025年11月から2026年10月までのシャンパーニュ出荷量は2億7,020万本で、0.4％増となった。数年にわたる出荷量の減少からは改善したものの、増加幅は小さく、輸出に依存したままだった。同じ12カ月間にフランス国内向けは4.1％減少し、輸出は3.8％増加した。

生産者の種類別に見た12カ月間のデータにも、同じ偏りが表れている。シャンパーニュ・メゾンは2.1％増だった一方、栽培農家は4.7％減、協同組合は2.1％減となった。11月と12月を残すなか、年末までの動向が、業界が成長を維持し、2025年の出荷量である2億6,600万本を上回れるかを左右する。

シャンパーニュにとって特に重要な輸出市場の一つである英国について、別途発表された数字も、海外からの下支えが続いていることを示唆した。Comité Champagneによると、1～9月の英国向け出荷は数量ベースで5.8％、金額ベースで7.1％増加した。平均出荷価格は1.3％上昇した。

Champagne Agents’ Associationの会長James SimpsonはThe Drinks Businessに対し、出荷データと消費者が実際に購入したボトル数を混同すべきではないと語った。英国のスーパーマーケット販売は比較的安定していたという。NIQのデータでは、小売販売は数量ベースで1.7％、金額ベース

で1.5%増加し、2億450万ポンドとなった。平均価格は27.93ポンドだった。

2025年に英国向けに2,270万本が出荷されたことを踏まえ、Simpsonは、現在のペースが続けば2026年には市場が再び2,400万本を超える可能性があると述べた。そうなれば、出荷量が2,550万本に達した2023年の水準に英国市場が近づくことになる。